

2024年日本惑星科学会秋季講演会開催報告

2024年日本惑星科学会秋季講演会実行委員長(九州大学LOC) 奈良岡 浩¹



図1: 口頭発表会場(九州大学医学部百年講堂大ホール)。

1. 概要

2024年9月24日(火)から26日(木)の3日間, 2024年度秋季講演会が福岡市東区の九州大学医学部百年講堂にて開催されました。参加者は296名(正会員一般・シニア会員145名, 正会員学生98名, 非会員34名, 発表の無い学部生・修士1年生19名), 講演は246件(口頭発表は最優秀発表賞セッション11件

と記念講演1件を含めて107件, ポスター発表は139件)でした。一般講演会は実施しませんでした。LOCは九州大学の惑星科学会員である奈良岡浩(LOC委員長), 岡崎隆司, 北島富美雄, 久保友明, 中島健介, 町田正博(以上, 大学院理学研究院), 山本勝(応用力学研究所), および, ウェブ担当の菖蒲迫健介(大学院理学府博士課程2年)が務めました。開催にあたっては惑星科学会会計から30万円の補助金を受けました。

1.九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門
naraoka.hiroshi.885@m.kyushu-u.ac.jp

2. 開催まで

九大LOCでの惑星科学会は過去に1996年, 2008年(いずれも九大箱崎キャンパス)があり, 3回目となる開催の打診を受けたのは水戸市で開催された2022年秋季講演会の前でした。2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症への対応として, 本学会の秋季講演会も2020年および2021年は完全リモートで開催してきました(会津LOCおよび名古屋LOCの柔軟な構想力と多大な尽力のおかげです)。しかし2022年は, 懇親会は直前に中止を余儀なくされたものの講演会はハイブリッド開催(こちらも茨城LOCの周到なご準備のおかげです)により, 対面での発表が復活しており, 2024年はコロナ感染症以前に復して完全に対面で開催する方針で準備を始めました。

現在, 九州大学の大部分の部局がある伊都キャンパス(福岡市西区元岡)は福岡市中心部から遠いため移動に時間と運賃がかかり, 経路途中のJR筑肥線が強風により不通となる事がしばしばで, また周辺のホテルのキャパシティも限られています。そこで開催時期や参加者の便宜も考慮し福岡市中心部の会場候補を幾つか検討した結果, 博多や天神から程近い馬出キャンパスにある九州大学医学部百年講堂を選択しました。この施設には定員586人の「大ホール」があり, 250人前後と想定された参加者を, 感染症が盛り返した場合にも適切な密度で受け入れることができます。また結合可能な「中ホール」3つと定員30人前後の会議室3つがあり, ポスター会場や各種委員会も含めて同一建物内で開催できます。会場使用料がやや高額になるのが問題でしたが, 運営委員会に願い出て, 感染症対策の一環として補助金の支出をご承諾いただきました。ここに深く感謝いたします。

LOCの活動は2024年4月から本格化し, 5月末のJpGUで行われた運営委員会での報告と総会のご案内, 「遊星人」第2号での開催告知を経て, 6月21日に秋季講演会HPをオープンしました。託児支援として会場周辺の託児施設をサーベイしましたが, 利用の問い合わせはありませんでした。

3. プログラム編成

受付締切直前には通知メールが殺到したため, 九大ファイアウォールが惑星科学会からのメールを遮断してしまうトラブルも発生しましたが, 最優秀発表賞応募も含めて最終的に246件の発表申込を受け付けました。この件数は史上最多で, 口頭発表の時間を確保するためには, 口頭発表を希望されていた講演30件をポスターに移動する必要がありました。この判断は昨年に引き続きSOCを組織して行い, また学生・若手に口頭発表の機会を提供することを意識しました。SOCには, LOCメンバーに加えて木村淳会員, 玄田英典会員, 平田成会員, 村上豪会員, 諸田智克会員にご担当いただき惑星科学会を特徴付ける研究分野の広がりへの目配りを確保しました。岡崎プログラム委員長の奮闘のもと最終的に編成されたプログラムは, 最優秀発表賞セッション11件(講演時間15分), 一般口頭発表95件(同10分), 最優秀研究者賞受賞記念講演1件(同40分), ポスター発表139件の構成となりました。ポスター発表では1日目正午から3日目の13:40まで全ポスターを掲示することとし, 各日に1時間ずつのコアタイムを設定しました。多くの発表申込とポスター移動のご承諾に感謝いたします。

4. 開催当日

期間を通して口頭発表の各セッションで活発な質疑が行われ, ポスター会場も各コアタイムを中心にたいへん盛況でした。2日目の昼休みには太陽系科学GDIによりRFIや宇宙研ミッション, 関連WGに関する報告と議論が行われました。2日目の口頭セッション後の総会では最優秀発表賞受賞者(吉田有宏会員, 神野天里会員)と優秀発表賞受賞者(平井英人会員, 福原優弥会員)が表彰され, 引き続いて田崎亮会員が2023年度最優秀研究者賞の受賞記念講演を行いました。

昨年の広島での秋季講演会に続き, 下記懇親会も含めて新型コロナウイルス感染症以前の本来の形態で秋季講演会を行えたことは感慨深いものがあります。また, 特に口頭発表のタイトなプログラムがほぼ予定通りに進行したことは, 多くの会合の遠隔開催を強

いられた参加者の皆様の経験の反映と言えそうです。その上で、6、7年前と比較して講演数はほとんど1.5倍になっており、口頭・ポスターとも3日間の会期に収められる限界に近づいている印象があります。会期の延長は参加者の負担でもあります。セッション終了後のフリーディスカッションの機会が大幅に増えて新しい研究の発想に繋がる可能性もあり、検討の時期にきているかも知れません。

5. 懇親会

懇親会場は講演会場から近いことを優先して馬出キャンパス内の九大生協医系食堂とし、スペースの関係上、定員制(150名)とさせていただきました。参加者の多くは早々に中洲などに繰り出して本格的に飲まれるであろうと想定して、メニューは「お酒はほどほど、食べ物中心」としました。ところが食べ物が思いのほか多く提供され、ご参加の皆様に頑張って頂いても食べきれず、一部の方には「かしわおにぎり」(とり飯のおにぎり、福岡名物です)を幾つもお持ち帰り頂くことになりました。久しぶりの対面開催で見極めが難しかったと反省しています。

謝辞

秋季講演会を盛況のうちに実施できたことを、各セッションの座長、講演者はじめ全ての参加者の皆様に感謝いたします。また、プログラム編成にご協力いただきましたSOCの皆様、会計システム、惑星科学会HPその他についてご教示を頂きました前年度の広島LOCの皆様にも深く感謝申し上げます。そして、最後になりますが、秋季講演会の円滑な進行を色々な面でサポートして下さいました九州大学の学部・大学院学生のアルバイトの皆様、本当にありがとうございました。